



またもや雨中のガス行軍である



扇ノ山をバックに青ヶ丸山頂にて

2003.4/12-13

扇ノ山-青ヶ丸山スキー



扇ノ山



雪尻を乗り越えて青ヶ丸山頂より滑降



青ヶ丸への稜線は大きなクレバスがいたるところにある



お~っと危ない!

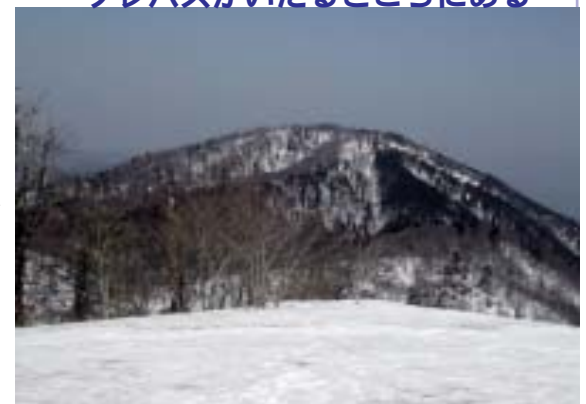
天 候：雨 / ガス / 晴れ
メンバー：石野美輝郎・横小路利郎・大塚賢一・玉田晶久
テ - マ：青ヶ丸 1239m の急斜面滑降

12日 小雨 / ガス

天気予報では今日は午後から急速に快晴に向かって明日は快晴になる、との予報だったので今シーズン最後の播州の山スキーに出かけた。

今回は広留から入山。雪解けが激しく高原の大根畑まで車が入れたのでいつもよりは一時間以上の短縮になるはずだ。

朝のうちは曇り模様だったが登って行くうちにだんだんと



仏の尾



至る所にスノーブリッジあり



やっと林道へ出た



雪解け水がゴーゴと流れる

雲行きが怪しくなりおまけに風とガスも出てきてまたまた扇ノ山は雨中行軍となってしまった。山頂小屋に着く頃にはホワイトアウト寸前までガスっていた、全く天気予報は外れてしまった。仕方ないので昼過ぎから自然と宴会モードにはいって行く。

今回はニューフェイスの玉田氏がいるので早速に小屋内でザイルワークの講習になる、講師は上司でもある横さんにしてもらおう、ホワイトボードと共に行動するに当たっては必須項目としてピッケル・12本歯アイゼン・スワミベルト・8環・ピナ・スリングは欠かせないのだ！。そこでまず結び方から入って8環の使い方、そしてピッケル・アイゼンで滑落停止訓練に入っていく。

13日 ガス/晴れ

朝はまったくのホワイトアウトでに身動きがとれない状態である。しかしラジオの予報では回復傾向になってくるとのことのでいつでも行動出来るようにパッキングだけはしておく。まだ滑降するには視界がおぼつかないので、滑落停止訓練を山頂の南斜面で行う。あまりに急なので念のためにザイルをして行った。玉田氏も飲み込めてきた様子でさまになってきた。この訓練はとにかく練習あるのみで身体に覚えこませることが一番である、滑落している途中で頭で考えても反応は出来ないものである。

昼前くらいにいきなりサ～ッとガスが晴れてきたかと思うと、見る見るうちにガスの間から青い空が湧いて出てきたかと思うとまぶしいくらいの久々の太陽が顔を出してきた。

さぁ滑降だ！、東斜面のブナ林へ奇声を上げて突っ込んでいく。小尾根をまたぎ大根畑へ、シブキ丸1088mから中ノ丸へ、仏ノ尾1227mの稜線に取り付き1144mで南に見える急斜面の青ヶ丸へと尾根伝いに登っては滑りのシールでまるで蘇武岳を思いだすかのようである・・・そう言えばここ2年は蘇武岳へは行ってないなあ。

山頂には登山者がいるようだ、シールも限界になってきたので引っ張りに装備変更で急斜面を登っていく。山頂からの景色は想像してた通りに素晴らしい、ハチ伏方面はもう緑になっているが氷ノ山はまだまだ雪が付いている。

ピストンは面白くないなので地図を見るとまず東の急斜面を滑降して尾根をまたぎ北方向の沢通しに西へ下って行くと林道に出られるようだ。面白いルートだが幾度もスノーブリッジを渡って枝に掴まりながらの播州ならではのスキーテクニックがいるところである。もう少し時期が遅ければ早々に登山返しになっていただろう。

なんとか林道にたどり着き中国自然歩道をショートカットして危ない橋を渡るのだが、今年は全く雪が付いてなかった、最も昨年より1ヶ月遅いのが当たり前であるが・・・。

今年はこの扇ノ山は姫路村と広留から攻めることが出来てよく遊ばせてもらった。この扇ノ山は山頂での遊びはいい斜面がたくさんあるし、なんと言っても山頂小屋は最高なのである。